

• Economy or Ecology

(経済成長か環境保護か…自然観、価値観の転換)

• Think globally, Act locally

(日常生活の場での実践)

(4) 講演会

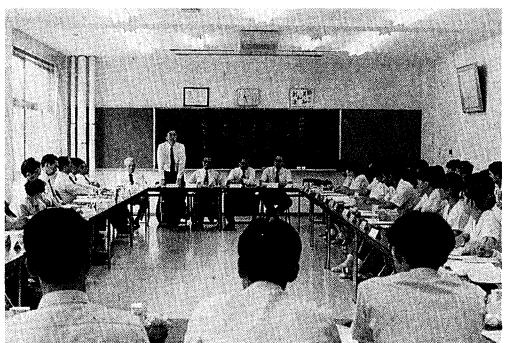
それぞれの委員会では生徒が「在り方生き方」を考察するのに最も効果的と考えられる講演会を実施した。

①人間委員会

詩人・哲学者・本校校歌作詞者

宗 左近 氏  
題『宇宙に求める人間の課題』

平成五年八月三十日  
(講演会後、生徒たちとの懇談会を開催した)



地域懇談会のようす



宗 左近氏の講演会

サッカー解説者（元オリンピック選手）松本育夫 氏  
題『人生へのチャレンジ』  
平成五年八月二十七日

サッカー解説者（元オリンピック選手）松本育夫 氏  
題『人生へのチャレンジ』  
平成五年八月二十七日

(3) 地球委員会

作家・ムツゴロウ王国 畑 正憲 氏  
題『ムツゴロウ大いに語る』  
平成五年十一月五日

(4) 運営委員会

日本骨髄バンク理事

大谷貴子 氏  
題『ひとすじの光を求めて』  
平成六年三月五日

(5) 特別活動

①生徒会活動

生徒会では、本部として各種の学  
校行事を開催し、専門委員会ではそ  
れぞれに「在り方生き方」に関わる  
実践を行つた。

②新聞委員会

第十号は「特集＝高まろう宇宙の  
奥の宇宙まで＝広げよう」との大見  
出しで研究指定校として様々な行事  
や催しを実践することを知らせた。

地域懇談会が開かれたのは、七月  
十三日である。この会には各クラス  
代表など生徒が約三十五名参加し  
た。生徒全員にその内容を知らせる  
ために、話された内容を書き起こし、  
号外として発行した。八月三十日は  
宗左近先生の講演会が開かれ、その

後、講師と生徒代表による座談会が  
持たれた。これも号外として書き起  
こして全校生に内容も知らせた。第  
三回目は文化祭の前に開催したが、  
もう一度文化祭の意味を問い合わせ  
て、準備に専念するようにとのねら  
いであった。定期の第十一号は、指  
定研究の成果発表会の日に発行し  
た。「在り方生き方」について改めて  
考えさせようとした内容のものであ  
る。

• 交通安全委員会

『人間としての在り方生き方』その  
前提となるのが、今生きていること  
である。その生きていようとするこ  
とを否定するものの一つに、交通事故  
故があげられる。生命の尊さを思う  
とき、交通安全の意識の高まりが必  
要となる。交通安全委員会としての  
任務の力点を各生徒への意識の改革  
などを徹底することに置いた。学校  
祭では、一つのコーナーを設け生徒  
の自転車安全に関しての意識の高揚  
を図った。内容には、本校の事故の  
形態をまとめたもの、アンケート結  
果の展示、通学路の危険箇所の表示  
などが展示された。

②清陵祭（学校祭）

生徒会が主催する三年に一度の学  
校祭は、十月三十日(土)から三十一日  
(日)の一般公開を含めて3日間開かれ  
た。清陵祭のメインテーマが『CA